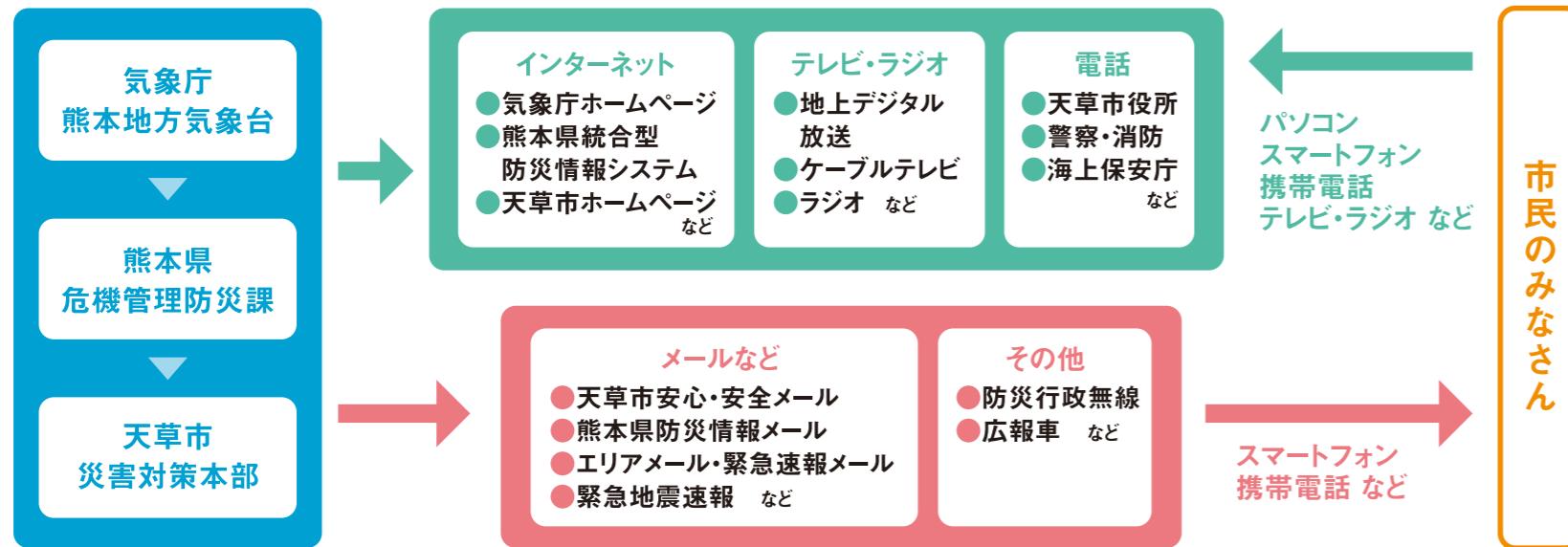


自ら判断し、早めに避難しましょう!

いざというときは

情報伝達の経路

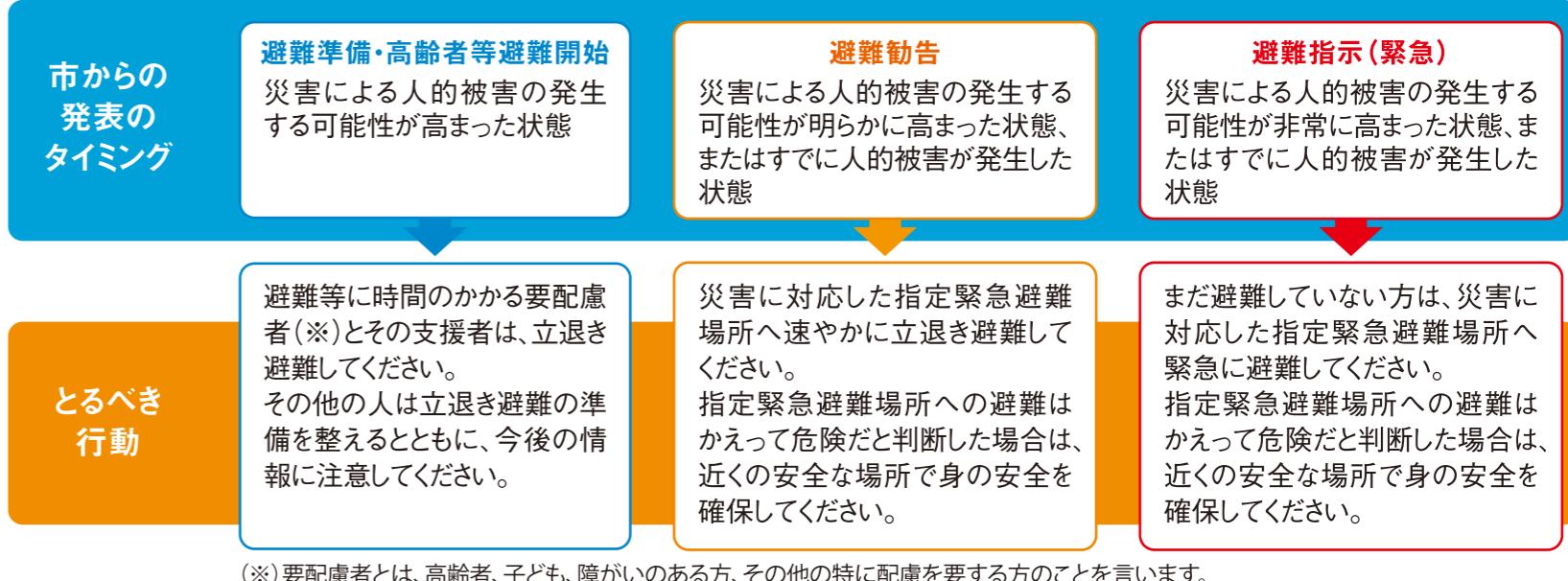


災害の種類と防災情報・行動のポイント



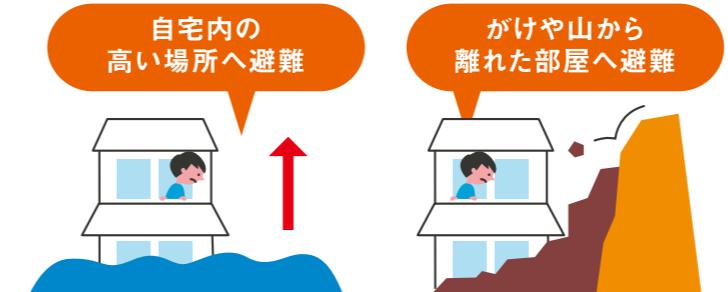
避難情報と住民がとるべき行動

災害が発生する可能性が高まり、住民の皆さんの避難が必要になった場合に、市は避難に関する情報を発令します。市民の皆さんは情報を確認し、適切な行動をとってください。



屋内安全確保(垂直避難)

- 予想される浸水が2階の床面(3m)未満の場合
- 屋外への避難がかえって危険な場合



立退き避難(水平避難)

- 2階の床面(3m)以上の浸水が予想される場合
- 土砂災害による家屋倒壊などのおそれがある場合



夜間に大雨が予想される場合は
明るい時間帯での予防的避難を心がけてください。

避難する場合…

- 避難する前に**: 電気のブレーカーを落とし、ガスなどの火元を閉め、親類や知人などに避難することを連絡しておきましょう。
- 一人暮らしのお年寄り**: などには気配りを。近所の一人暮らしのお年寄りや病気の方がいる場合は、声を掛け合って一緒に避難しましょう。
- 車での避難は控えて**: 車での避難は緊急車両の通行の妨げになり、交通渋滞を招きます。特別な場合を除き徒歩で避難しましょう。
- 浸水した道路を通る場合**: 水路には十分注意して、できるだけ高いところにある道路を選びましょう。
- 速やかに避難しましょう**: 避難に関する情報が発表されたら、速やかに避難しましょう。避難の際には消防団員などの指示に従いましょう。

災害時に特別な配慮を要する方々への支援

高齢者や障がいをお持ちの方など、災害時において特に配慮を要する方々は、災害発生時において地域の皆さんの支援が必要となります。

- 高齢者・病人**: おんぶ(または担架、リエサーなどを利用)して安全な場所まで避難する。複数の介助者で対応する。
- 目の不自由な方**: 声をかけ、情報を伝える。誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持つてもらい、半歩手前をゆっくり歩く。
- 耳の不自由な方**: 話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。
- 車いすを利用している方**: 階段では2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おんぶして避難する。